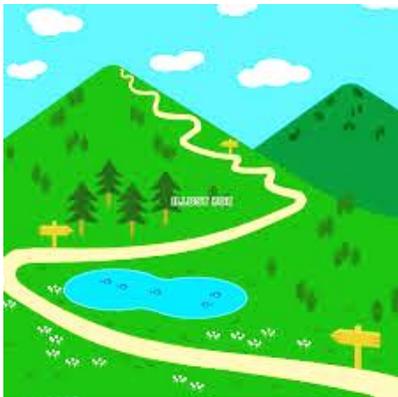




「こだまでしょうか」に込められたメッセージ

金子みすゞさんと言えば、大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した、今や全国的にも著名な童謡詩人です。まして、現長門市の出身ですから、特に山口県では知らない人はとても少ないでしょう。

私は、以前「金子みすゞ記念館」を訪れ、彼女の残した数々の素晴らしい作品だけでなく、波瀾万丈の生き様にふれることができた。最近、濃い緑が鮮やかな三井の山々を見ながら、ふと彼女が残した代表作「こだまでしょうか」が頭をよぎりました。



「こだまでしょうか」
金子みすゞ

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていうと
「ばか」っていうと
「ばか」っていうと
「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていうと
そうして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていうと
こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

東日本大震災を受けて、CMでこの詩が流れたときは、本当に驚きました。この詩で注目したのは、「こだまでしょうか」という呼び掛けに「いいえ、誰でも」と答えている末尾の一文です。

よいことも悪いことも、投げ掛けられた言葉や思いに反応するのは「こだま」だけではなく、万人の心だというメッセージが読み取れます。

子どもたちの日常にも、私たち大人の日常にも当てはまる場面が多いと思います。人に親切にすると、人から親切が返ってきます。人の悪口を言うと、必ず自分の悪口となって返ってきます。真に人のために尽くす人は、自分もそうしてもらおうと思っているわけではありません。**必然的に自分の行いのこだまに包まれてそうなる**のでしょうか。人を褒めて励ませば自分を褒めて励ますこだまが、人を傷付ければ自分が傷つくこだまが、自己中心的な無責任な言動はその人を嵐や氷河の中に突き落とすようなこだまが返ってくるでしょう。

子どもたちには、**相手の目線に立って、相手の気持ちにより添って人と関わること**ができる思いやりの心やコミュニケーション力を育てていきたいものです。

「人権の花運動」に取り組んでいます

本校では今年度、「人権の花運動」に取り組みます。この運動は、児童が花の種や球根などを協力して育てることによって、豊かな心を育み、生命の尊さや優しさ、思いやりの心を体得することを目的としています。

2年生がひまわりを、3年生がマリーゴールドを育成し、校区内の施設に贈ったり、イベント会場に飾っていただいたりする予定です。

